

## 高津区おはなしアーカイブ

### ●大石 瀧次郎 (おおいし たきじろう)さん

昭和15年生まれ 75歳

川崎市高津区下作延5丁目在住



#### ◆どんなご家族でしたか

生まれは川崎区にある今の宮前小学校の裏門のところで、昔は榎町と言いました。

7人兄弟の長男です。長男でも名前に「次郎」がつきます。下は、3人ずつの弟と妹たちで、7人とも健在です。一番下の妹だけは近所に住んでいて、あとは離れて暮らしています。

4歳の頃の記憶は、火事で焼け出されたことですが、「空襲だ!」という説明はありませんでした。たしかに、幼少の私にい

ちいち言っても分かることではありませんからね。

本庁舎と移転前の小美屋(こみや)デパートがあった場所は、その建物だけが空襲でも残りました。

同じ19年に、父が最後のお国への御勤めとして海軍に借り出されました。残った私たちは、静岡にいた親戚を頼りに移りました。終戦の時は内地に父がいて、無事に静岡で落ち合うことができ本当に良かったです。そして、静岡からこの下作延に落ち着いたというわけです。

父はこの辺りでは一番古い石屋です。墓石の他にも門柱や玄関の石貼などして、建設業の友人も多かったです。墓地の仕事がない時は塩浜まで行き、臨港の港湾工事や護岸工事なども請け負っていました。

普段の買い物で、米や野菜は溝口まで行きました。当時はヤミ市がありましたからね。道は、二子玉川に出るより川崎の方が行きやすかったですよ。

#### ◆学生時代のお話を

昭和22年に高津小学校に入学しました。南武線を通いましたから、小学校から定期券ですよ。授業は2部制で午前組と午後組です。小学校5年生の時に東高津小学校が建てられ、この2部制は解消しました。戦争がなければ、宮前小学校に行っていたはずですよ。宮前小学校の方が歴史はあるんですよ。

兄弟が多いから、よく弁当を忘れることがあるんです。校舎のそばにパン屋があり、その時だけは、外に出ても怒られませんでしたね。店の人がコッペパンを切って、その中にバターやチョコレートを挟んで塗ってくれました。とても美味しかったですよ。

また、当時は今のように学校行事など、いろいろな大会が開かれる時代ではなく、自分たちのことで精一杯でした。

現在の下作延小学校は、昭和58年創立で、すでに創立30周年式典を終えています。上作延小学校の生徒数が多すぎて、建てられたのです。久本の子どもたちは、ここには通学してなかったですね。この下作延小学校には、私の子どもたちや孫たちもお世話になりました。役員は1年間務めました。

中学は、高津中学です。1クラス50人で8クラスありました。

その後、高校は神奈川県立工業高校土木科に進みました。高校は食堂があって、弁当は持っていきませんでした。その食堂は多分、全日制の生徒のためではなく、夜間部の生徒ためにも作られたと思います。なぜならメニューは、ご飯ものは無くて、うどんや蕎麦のみ。それをかけこんで食べる立ち食い蕎麦屋みたいな感じでしたね。仕事を終えて、夜間に登校する生徒たちが早く食べ終わって授業に出られるように配慮されてたんです。

中学までは、帰りが遅くなると家の手伝

いがないので、クラブ活動はできませんでしたが、高校からはラグビー部に入部しました。きっかけは、先輩からの勧誘です。高校3年間の就職までの約2年半は、ラグビーにどっぷりとつかりました。強くなるとラグビーの魅力にどんどん取りこまれましたね。

当時、ラグビー部は川崎市内には少なく、横浜の私立の伝統校が強かったです。剣道や柔道の柔道場と違い、自校での練習は十分出来ました。

当時、法政二高とはあまりラグビーでは対戦しなかったけど、野球のジャイアンツで活躍した柴田投手がいましたよ。当時、ラグビーでとにかく一番強かったのは慶応高校でした。

#### ◆当時の町の様子は

下作延に引っ越してくると、この津田山駅前の道路が都市計画で認定道路の南武沿線道路になりました。都市計画前の道幅は今の半分以下でした。当時、役所が地主と交渉して、道路ができる前に水道も引いていました。南武沿線道路や尻手黒川道路もしかりです。国の政策の一環で、工業都市にしていろいろな製品の生産を上げるためでした。いわゆる今の川崎市内の大会社には、その昔に市がいろいろと基礎を作ったと言っても過言ではありません。

電気はすでにありましたから、トロリーバスというものが本庁舎からさいか屋の前

を通過して、1周するように走っていました。大師線と市電の間を走る感じです。当時の市長の尽力のおかげです。

今のマックスバリューというスーパーマーケットがある所は、戦時中から昭和63年まで、ヒューム管工場がありました。アメリカ軍はここには爆弾を落とさなかったが、今の洗足学園の所にあった日本光学などには、落としましたね。

敗戦後、神奈川県座間や厚木などの米軍基地は、トイレの浄化設備に力を入れました。ヒューム管工場があったせいか、この辺りにもアメリカ本土からクレーン車などが運びこまれました。子どもながらにアメリカは凄いなあと思いましたよ。狭い道でも、米軍のトラックのドライバーは上手いもんです。このトラックが入ることにより、貨物列車の輸送がもっと便利になりました。

当時、貨物列車を南武線で走らせていた会社は、ヒューム管はもちろん、第一セメント、東芝、明治製糖、昭和エーテルなどです。

今の三菱自動車の会社があるところは、昔「ビクターオート」と言っていて、朝鮮戦争の時に壊れたトラックの修理をしていたようです。まあ、今思うに三菱自動車はバックにいたのですね。住民は、軍用車の修理をしていたなどとは思いませんよ。

南武線の稲城長沼駅は米軍の弾薬庫があり、弾薬列車が走っていました。

#### ◆平瀬川の氾濫の経験はありますか

昔は「あばれ川」と言いました。氾濫してひどい時は、今の「上の橋」、「下の橋」、「丸井」のところまで水浸しになりました。原因は、南武線の鉄橋の橋げたに水がぶつかり、一部をせき止めた反動で向こう側にオーバーフローしてしまったようでした。

津田山も3分の2は水で浸かり、駅も半分が浸かりました。駅員に知人がいて、その時に写真を撮ることを頼まれ、その写真を国鉄に渡しました。それからですよ、南武線の橋げたが広がったのは。

川の小さい氾濫はたびたびありましたが、昭和52年頃に凄いのがありました。トンネルを2本にしたら、多摩川にだいたい水が抜けるようになり、かなり落ち着きました。

地元の方々と行政のおかげだと思います。

#### ◆家業の石材店についてお話しください

長男としてよく、父の手伝いをしましたよ。小学校5年までは毎朝6時に起こされ、コークスに空気を送って延ばすフイゴ（気密な空間の体積を変化させることによって空気の流れを生み出し、火力を強めるために用いる送風装置）を吹きました。これは石を作るのに必要な作業ですが、おそらく、この仕事は石屋の長男なら全国共通です。毎朝この役目をしてから朝食、そして登校しました。休みは土日に関係なく、毎月1日と15日でした。これは職人たちの休みの

日だからです。職人は、入れ替わっても随時3人から5人はいましたね。仕事は何人かで組んでやるのが基本だったから、2人などでは何にもできないのです。昔はすべて、人間の手で仕事をしましたからね。小学校6年の時に電気送風機ができて、やっとお役目御免となりました。フィゴが要らなくなったら、同時に子どもの役目もなくなったということです。このフィゴは、現在川崎市生活文化会館「てくのかわさき」に寄贈してあります。

昭和34、5年頃には、今も土木工事で使っているタンガロイ（炭化タングステンとコバルトの焼結合金。ダイヤモンドに次ぐ硬度をもち、切削工具材料に利用）という工具が開発されて、焼かなくてもいいようになりました。

高卒後は、父の会社を継ぎました。昭和28年頃には霊園の仕事があまりなかったのですが、昭和34年頃には忙しくなってきました。18歳で自動車免許を取ったら、仕事量が増えたので、今度はフォークリフトの免許を取りました。そのあとはどんどん機械化され、設備投資ですよ。まるで機械を買うために働いているようなもんでした（笑）。仕事を通じて一級石工技能士の資格を取得し、おかげさまで神奈川県卓越技能者の表彰も受け、神奈川名工会会員にもなりました。今は、この川崎市緑ヶ丘霊園内が主な仕事です。

## ◆有名な霊園のお花見について

この霊園は開設が昭和18年、面積が約59ヘクタールです。墓所数は、平成23年4月では4,970箇所となっていますから現在はまだ数字的に増えていると思います。

麻生区にも川崎市内2番目の公営霊園墓地・早野があります。今は緑を開墾して墓地を増やすことは禁止になりました。

昔からこの津田山の花見は有名です。昭和20年後半から直径7～8センチの桜の苗木を植えて並木として整え始めました。奥に行くほど桜の木は新しいのです。

下作延小学校のできる前は、線路に沿っても植えましたし、墓地のところは下の土地から上がるように植えていきました。もはや、土地を売ってくれるところからどんな桜を植えていった感じでした。現在、ほとんど桜並木が繋がりましたね。

花見の思い出としては、いろいろありますねえ。霊園の入り口を通行止めにして花見優先にしたり、すると今度は車で来た墓参りの人から文句が出たりと、いろいろと取り決めに変遷はあったようです。

今は、昔より花見客が少なくなりました。川崎市内にも桜の名所がたくさんできましたからねえ。とどろきアリーナや二ヶ領用水、専修大学内や明治大学の生田キャンパスなど、花見が分散しています。大会社の新人歓迎会の花見も、もはや1箇所に集中しなくなりましたし。昔は、稲田堤の桜も

有名でしたが、桜の寿命も60年と言われていて、今はだいぶ枯れています。

去年から墓地が指定管理制度になりました。やはり大々的な花見はやらない傾向にあります。以前、桜の木を切るという話もありました。それは、桜の古木が倒れてケガ人が出ると大変だということで、木の鑑定人が木の中の空洞を調べたりしたのです。大事には至りませんでした。実際に小学校で木が倒れるということがありました。もし、墓地に木が倒れて、墓石を壊したら、高額な損害賠償になってしまいますね。

#### ◆現在、ふり返って思うことは

石材の組合でトップを10年務めました。高津区役所の正面入口の横にあるブロンズ像の台座は、うちの石ですよ(笑)。他には川崎市友好姉妹都市である旧ユーゴスラビアのリエカ市や、アメリカ合衆国のボルティモア市へ、川崎市から灯籠などを寄贈した際に関わったり、国会議事堂衆議院正面玄関広間に故三木首相胸像台石設置工事、愛知県豊田市松平に徳川家(松平家)先祖、松平親氏ブロンズ像台座設置工事なども行いました。今は石屋だけでなく、建設業も営んでいます。東京の建設業者の仲間も多いし、お客さんもお墓だけだと世間が狭くなってしまう。

30代で町内会役員、子ども会会長を2期など務めましたし、地元のロータリークラブでも35年間活動しました。

当時の子ども会はお金がなくてねえ、廃品回収で野球部ユニフォームのお金を捻出しました。助成金もなかったから、子どものケガの保険金も自己負担でした。

他には、青少年指導員を町会から頼まりました。

今は、息子と一緒に仕事をしていますが、私もまだ現役です。持病はありますが、仕事が好きなんです。

父から家業を継ぎましたが、父とは溝口まで一緒に映画を見に行った思い出もあります。



〈ブロンズ像及び台座〉

(平成27年10月22日実施)